

芸術・文化による現代版「足利学校」創造プロジェクト  
～アートでつなぐ、学びのこころ～

足利市民会館・専属

# 『足利 カンマーオーケスタ』

音楽監督：風岡 優

発足計画

## 1 専属楽団・発足計画策定の経緯

足利市民会館では、これまで、優れた舞台芸術の鑑賞・体験機会の提供の他市民参画創造事業に積極的に取り組んでまいりました。

特に、足利市におけるオーケストラの位置付けは、開館まもない昭和43年からスタートした小・中・高校芸術鑑賞教室での鑑賞や、近年ではNHK交響楽団や水戸室内管弦楽団と言う、国内一流のオーケストラの鑑賞機会にも恵まれてまいりました。

しかしながら、これら機会は貴重な機会ではあるものの、一過性であり、真の市民文化の醸成にはまだ十分ではないと考えられます。

そこで、これまで、青少年時代に培ってきた音楽との交流を大切にしながらなおかつ、文化の永続性を担う、1年をとおして、身近に触れ親しむことのできる、すなわち、市民に直結した「プロ・オーケストラ」の必然性を感じ、平成24年度から1ヶ年を要して、栃木県内「初」の会館専属プロ楽団の発足を目指すこととなりました。

運営に当たっては、幸いにも、2009年（平成21年）に発足した足利ユースオーケストラ運営スタッフの皆様の特別のご協力により、市民の手によって育て・支援する「プロ・室内オーケストラ」の誕生となります。

## 2 楽団のミッション

- ①市民ならびに地域文化の革新と醸成
- ②新たな地域コミュニティ形成による足利創生
- ③子どもたちの芸術環境づくりと社会的弱者の心の支援
- ④未来の人材育成

## 3 活動内容

- ①芸術・文化（オーケストラ）の鑑賞・体験による「活力と潤い」のある文化的生活の実現
- ②芸術・文化（オーケストラ）への参画・鑑賞をとおしての市民交流機会の提供
- ③芸術・文化（オーケストラ）の鑑賞・体験をとおしての青少年及び社会的弱者への支援
- ④芸術・文化（オーケストラ）をとおしての子どもたちの情操的成長及び人間力向上

## <概要>

名称：『足利 カンマーオーケスタ』

構成団員：研究科修了生ならびにプロ演奏家（演奏活動をしている人材）

入団選考：オーディション

発足手法：10ヶ月間の研究科を開校

団員数：35名

※発足後の、新メンバー選考については、オーディションによりその都度選考するが、基本的に1年間の試用期間を経て、正式メンバーとする方式を取りたい。

## <運営体制>

音楽監督：風岡 優氏

運営委員長：小崎憲一氏（市民）

副委員長：仁木香代子氏（市民）

運営委員（市民）：高橋裕美氏・岡田貴美子氏・井上智子氏  
松場政芳氏・五位野高吏氏・

専門スタッフ：小崎紘一氏（株式会社オレンジノート在籍）

研修スタッフ：宮下信子氏（東京藝術大学大学院芸術環境創造学科修士課程1年）  
三田真奈美氏（新潟大学教育学部芸術環境創造課程1年）

事務局：財団法人足利市みどりと文化・スポーツ財団  
（足利市民会館・事業担当）

## ■足利市民会館・専属『足利 カンマーオーケスタ』

### 音楽監督 風岡 優 (元群馬交響楽団コンサートマスター) プロフィール

高崎市在住。国立音楽大学入学。

1973年同大学中退と同時に群馬交響楽団にコンサートマスター要員として入団。

1975年7月、文化庁派遣在外研修生として渡欧。ウィーン市立音楽院入学。

1977年7月帰国。群馬交響楽団コンサートマスター就任。

群響入団時より、オーケストラとの共演の他、ベートーヴェン・ヴァイオリンソナタ全曲演奏会を東京文化会館にて開催。バッハ無伴奏ソナタ・パルティータ全曲演奏会など、ソロ活動を積極的に行なってきた。

カール・ライスター、モーリス・ジャンドロ、神谷郁代、伊藤恵、江藤俊哉等、国内外のアーティストと数多く共演。これまでに、風岡裕、鷺見四郎、堀伝・ヴァルター・バリリの各氏に師事。

2004年9月、群響を退団。現在は、ソロ・室内楽を中心に活動。

弦楽合奏団「アンサンブル・クヴェレ」主宰。

2008年4月、群馬交響楽団・常務理事に就任。

2010年9月、足利市民会館・クリエイティブ・アーティストィック・パートナー就任

2011年3月、群馬交響楽団・常務理事&アドバイザーを退任。

足利ユースオーケストラ全体統括。